

2021年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

展覧会名	浮世絵風景画―広重・清親・巴水 三世代の眼―			担当者名	村瀬可奈、滝沢恭司			
会期	2021年7月10日(土)～9月12日(日)			開催日数	55日			
協賛・後援・協力	助成：芸術文化振興基金							
巡回館	なし							
展覧会概要	江戸、明治、そして大正から昭和という3つの時代に、伝統木版画の技術を用い風景版画を制作した3人の絵師・画家、歌川広重(1797-1858)、小林清親(1847-1915)、川瀬巴水(1883-1957)を紹介する展覧会。変わりゆく日本の風景を「三世代の眼」がどのようにみつめ表現してきたのか、その違いを対比しながら、時代を超えて響きあう風景観や抒情性に着目。373作品で、100年にわたる日本の風景を紹介した(前期・後期で全点展示替え)。							
ねらい・対象	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向け、日本の版画文化を紹介する目的で開始された「はんび浮世絵プログラム」の最終展。当初は2020年度に開催を予定していたが、コロナウイルス感染症拡大のため2021年度へ延期された。国内外で高い人気を誇る広重・清親・巴水が一堂に会するという、これまでにありそうでなかった構成で、会期変更前はインバウンドを含むあらゆる層の来館を狙った。会期変更後は、夏休み期間中の子どもたちや、遠方への外出を控える市内～首都圏在住者を主なターゲットとして、風景版画を旅するように鑑賞していただくことを目指した。							
関連催事	催事名		開催日	タイトル	講師等	参加者数		
	記念講演会1		7月18日(日)	「小林清親の広重学習―《東京名所図》と《武蔵百景》を中心に―」	赤木美智(太田記念美術館主幹学芸員)	55人		
	記念講演会2		8月7日(土)	「‘彩’と‘趣’―広重・清親・巴水をつなぐもの―」	大久保純一(当館館長)	59人		
	版木摺り体験		7月24日(土)	復刻浮世絵版木摺り体験	渡辺利江(当館学芸員)	25人		
	寄席		8月1日(日)	芹ヶ谷はんび寄席	林家正雀、林家彦三、鏡味仙成、のだゆき	57人		
	版画体験イベント		8月13日(金)	My landscape―風景の手ぬぐい―	田中茜(アーティスト)	46人		
	こども鑑賞会		8月18日(水)	こどものための鑑賞会 おうちで版画美術館	富田めぐみ(NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表理事)	13人		
	英語によるスライドレクチャー		8月22日(日)	“The Japanese Cityscape in Print: Hiroshige to Hasui”	フランク・ウィットカム(東京国立博物館アソシエイトフェロー)	コロナウイルスのため中止		
	担当学芸員によるスライドトーク		7月17日(土)	「巴水 大正・昭和の新版画」	滝沢恭司(当館学芸員)	48人		
	担当学芸員によるスライドトーク		8月29日(日)	「広重・清親の浮世絵風景画」	村瀬可奈(当館学芸員)	35人		
	プロムナード・コンサート		9月11日(土)	「音楽と風景」	玉川大学芸術学部学生、桜美林大学芸術文化学群学生	130人		
観覧料	一般	大・高生	中学生以下	無料日				
	900 円	450 円	無料	・初日：7/10 ・シルバーデー(65歳以上無料)：7/28、8/25				
	有料計		無料計	総観覧者数	内、一般	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	8,099 人		3,156 人	11,255 人	10,113 人	543 人	599 人	― 人
	目標値		12,930 人					
主な収入	観覧料収入		図録販売収入		受託販売収入		その他の特定財源	
	6,241 千円		2,226 千円		86 千円		1,184 千円	
事業経費	・講師謝礼				131千円		12,007 千円	
	・原稿執筆謝礼				629千円			
	・展覧会出陳謝礼				510千円			
	・通信運搬費				2,975千円			
	・作品額装委託料				895千円			
					内、2020年度514千円			
	・広告宣伝委託料				1,097千円			
	・ポスター等作成委託料				4,089千円			
				内、2020年度3,039千円				
・ディスプレイ作成委託料				1,681千円				
				内、2020年度482千円				

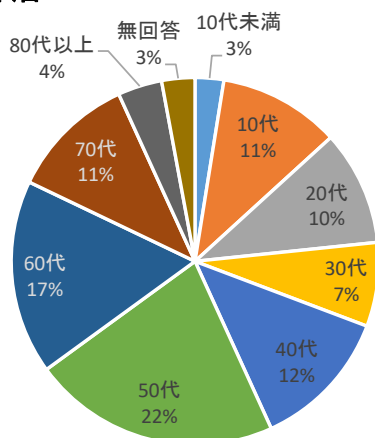
主な広報・取材等の講評	【テレビ】イツコム地元NEWS、TOKYO MX「わたしの芸術劇場」ほか 【ラジオ】エフエムさがみ 【新聞】The Mainichiほか 【ウェブ】和楽webほか												
アンケート結果	回収数		回収率		市民率		リピーター率		満足度(とても良かったと良かったの率)				
									企画の内容	展示作品	展示の仕方等		
	515	件	4.6	%	34	%	60	%	98.8	%	98.2	%	91.7
	主なご意見		別紙のとおり。										
工夫と反省点、改善方法	予備調査	本展は大久保純一館長と学芸員2名で、それぞれ広重・清親・巴水を分担するかたちで企画構成を行った。2019年夏頃より各自で準備を進め、本格的な出品交渉は2019年秋の「美人画の時代展」が終了した2019年12月頃より開始した。											
	作品選択	各絵師・画家の作品を120点前後を選定し、合計373点を出品。作品保存の都合上、会期中に全点展示替えを行った(常時約185点を展示)。「第1章 江戸から東京へ—三世代の眼—」では、同じ場所・モチーフを題材にした3人の作品を並べ、江戸・東京名所がどのように描き継がれてきたかを比較しながら、3者の特徴をわかりやすく提示した。2章では広重、3章では清親、4章では巴水を取り上げ、絵師・画家ごとの風景版画の特質や変遷を掘り下げた。											
	図録作成	原稿の執筆は館長を含む担当者3名で分担し、エッセイ3本、作品解説、関連年表、主要参考文献を収録した。会期変更の都合により前年度予算で作成したため、2021年3月に完成し、会期1ヶ月前より館内のミュージアムショップで販売を開始した。売れ行きは大変好調で、最終日の前日に930部が完売した。											
	広報	プレスリリースの発送、広報まちだへの掲載、当館Twitter、Instagram、町田市YouTubeチャンネルへの投稿等を行った。また2020年8月には、会期変更前に予定していた「浮世絵フェア」と林望氏による記念講演会を、次年度への予告を込めて開催。「浮世絵フェア」では出品予定作品の一部を市民展示室で特別公開した。こうした活動の成果により、会期前からSNS等で開催を楽しみにする声が聞かれた。SNSでは作品紹介の投稿への反響が多かったが、会期前半は展示替えやイベントの準備で十分な広報が行えなかった。今後はあらかじめ投稿内容を準備するなどの改善を行いたい。											
	宣伝	駅貼りポスター、Twitter広告、宣伝動画の配信等を行った。同時期に「巴水」「新版画」「浮世絵風景画」をテーマにした展覧会が多く開催された影響か、テレビや新聞等主要メディアからの取材は多くはなかったが、Twitter広告では表示回数が52万回以上に及び、一定の宣伝効果を発揮した。ちなみに、アンケート集計結果で展覧会情報の入手手段として「テレビ番組」が挙がっているが、これは6月に「#映える風景を探して」展の紹介で放送された『ぶらぶら美術・博物館』のことと考えられる。											
	ディスプレイ	出品作品は浮世絵・新版画で判型が統一されていたため、空間に変化をつけるために会場内には章ごとにバナーを設置した。本展の見どころである第1章全点に加え、各章で5点ずつ撮影可能作品を設定した。また展示室の最後に写真撮影バナーを設置した。解説キャプションはわかりやすいと概ね好評だったが、「文字のサイズが小さく読みづらい」という声も多く、後期展示からは文字サイズを大きくした。また、作品解説の多くに英語訳を併記した。											
	輸送・展示撤去	作品輸送にあたっては、当初よりオリパラ期間の道路規制や混雑の影響が懸念されたため、拝借先は都内を中心に可能な限り件数を限定した。結果的に9箇所より184点を拝借し、特にトラブルなく終えた。ただし個人宅からの作品輸送は、コロナウイルスの感染者数が落ち着いていた2020年秋に終わらせた。展示・撤去作業は、余裕をみて4日間かけて行った。会期中に1度、全点展示替えを行った。1日で大幅な展示替えを行った2019年「美人画の時代」展の反省を活かして2日間確保し、作品や作業員の安全を優先した。											
	イベント	赤木美智氏(太田記念美術館)と館長による2本の講演会、子どものためのオンライン鑑賞会、演芸会、担当者によるスライドトークなどを行った。当初計画していたフランク・ウィットカム氏(東京国立博物館)による英語のスライドレクチャーは、感染状況の悪化のため残念ながら中止となった。しかしその代わり、担当者3名が英語で解説をする動画を作成し、YouTube にアップした。											
	子ども向けガイド&キャプション	子ども向けガイド「UKIYO-E風景画たんけんツアー!!」を作成し、展示室で配付した。クイズに答えながら展示室をまわり、作品鑑賞を楽しんでいただくことを狙った。また作品の隣に子ども向けの解説キャプションを設置し、浮世絵の基本的な技法や見どころを紹介した。今後もこうした取り組みを続けたい。											
その他特記事項	・2017年度より実施している「はんび浮世絵プログラム」の第4弾として企画した。 ・当初の会期は2020年7月11日～9月13日。新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、「インプリントまちだ展2020 すむひととゆるひと—アーティストがみた町田—」展とともに会期を変更した。 ・各種の割引制度を導入した。割引内容と利用者数:リピーター割引(508人)、着物割引(25人)、ウェブ割引(1435人)、タクシー割引(20人)、パスポート割引(6人)、シェアサイクル割引(0人) ・アンケートの結果をみると、60歳代以上の観覧者割合は32%である一方、40歳代以下は43%と多かった。2019年開催の「美人画の時代」展では60歳代以上が56%、40歳代以下が25%だったことを踏まえると、コロナ禍の影響で若い来館者の割合が大幅に増えたことがわかる。												

「浮世絵風景画―広重・清親・巴水 三世代の眼―」 展 アンケート集計結果

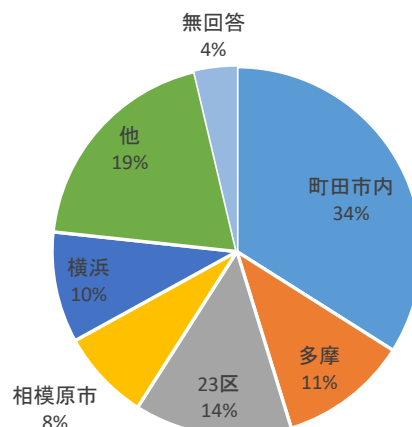
開催期間：2021年7月10日（土）～9月12日（日）

回答者数： 515 人（総入館者数：11,255人 アンケート回収率：4.6%）

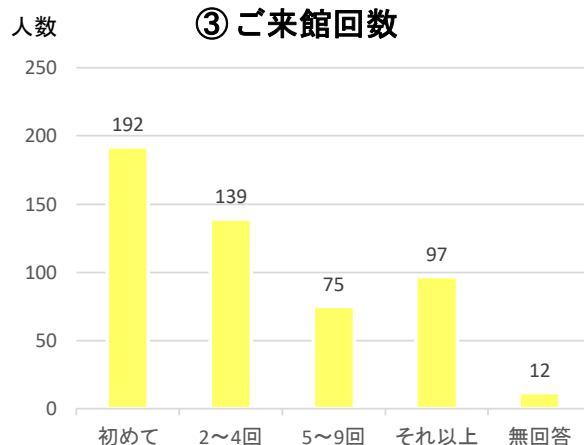
① 年齢層



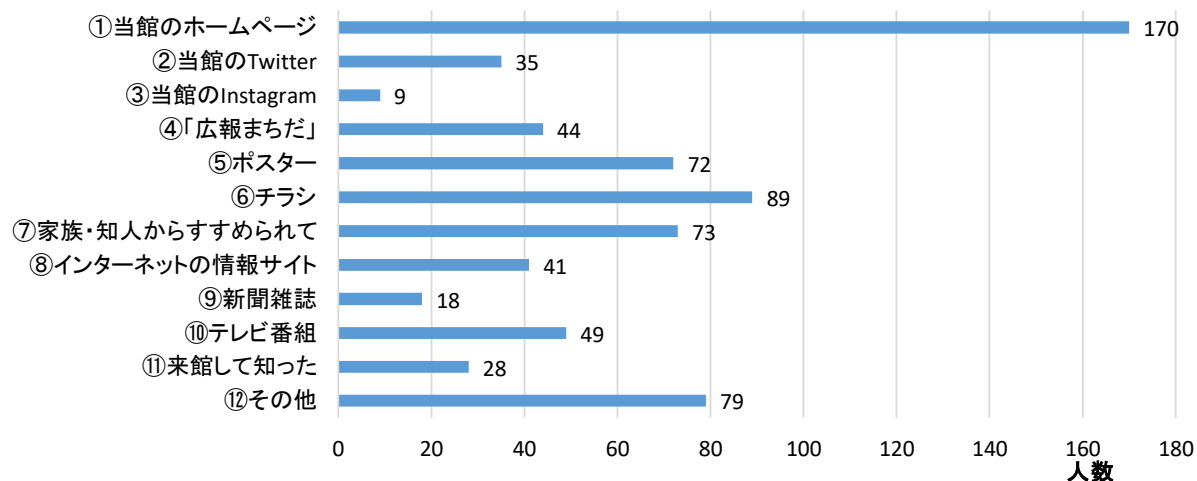
② お住まい



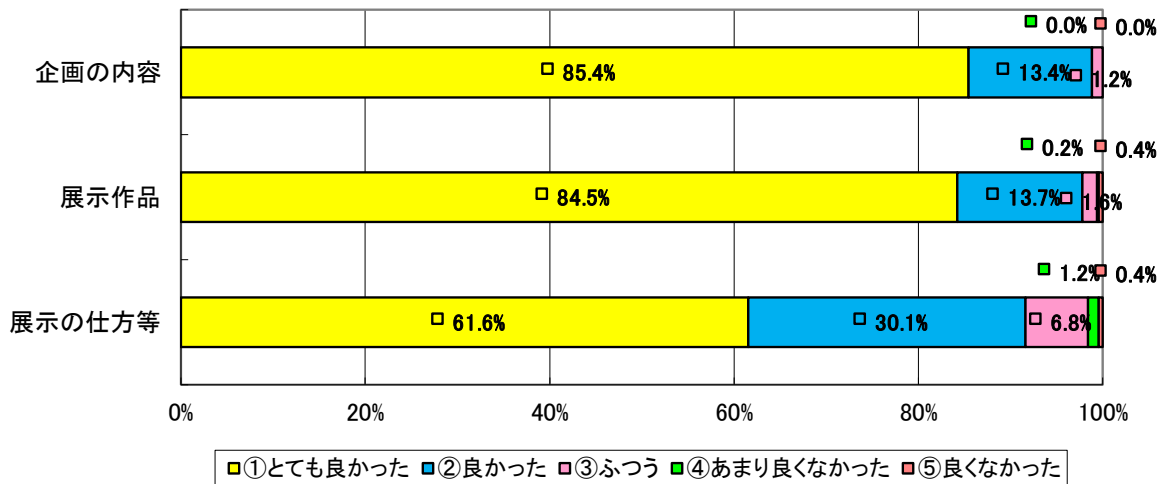
③ ご来館回数



④ 展覧会情報の入手



⑤ 回答者の満足度



⑥ 主なご意見・感想

◆展示構成

第1章の三者を比較したコーナーが面白かったです。／ 同じ場所を描いた3人の作品に胸がキュッととなりました。3人を並べる企画すばらしかったです。／ 江戸、明治、昭和の世の中が見えた感じがした。／ 展示を見ているだけで旅行した気分になれる展示で、コロナ禍だからこそ楽しめました。／ 広重、清親、巴水はそれぞれ何度と展覧会を見ているが、改めて三者を並べて見てみると、その根底には日本人が求めている(理想としている)美意識、あるいは価値観を感じた。実際にそのような風景は既に存在していないのに、どこか懐かしく、居心地の良さを感じる。／ 前期展示がとてもよく再訪しました。前後期で全作品展示替えというのは良いなと思いました。／ 前期も来ましたが、後期もまた違った着眼点等でとても楽しかったです。

◆作品

浮世絵がこんなに美しいとは思いませんでした。すばらしい一言です。／ この展覧会のおかげで浮世絵の魅力、美しさを知ることができました！本日で2回目です。／ 広重をはじめとした浮世絵の木版を彫る人やその技術が気になります。ものすごい技術がないと絵師の絵を再現できないと思うから。

◆キャプション、鑑賞ガイド

わかりやすく、興味深い視点での解説でした。／ 説明が多すぎず丁度よい。／ 子ども用のキャプションがとても楽しかったです。／ 子ども向けガイドもあり、思いがけず小学生も楽しめて良かったです(※40歳代)。／ クイズがたのしかった。／ 摺り方のワンポイント解説が作品をより深いものにさせた。／ 技法紹介がとても興味深かったです。／ 知識のない自分にもわかりやすく理解が深まった。／ 歴史時代背景を少々知らなくても入りやすいきっかけになる解説が良かった。／ 文字が小さくて作品前に人が集まり、作品が見られなかった。

◆展示環境・写真撮影

写真OKのものがあ来館記念に良かったが、もう少し多いと嬉しいです。／ シャッター音がうるさい。すべて撮影禁止にしてほしい。／ 撮影は全部OKかNGIにしてほしい。／ 少し冷房が寒かった。／ 1部屋目の暗さが少しだけ気になりました。／ 静かで照明の落とし具合よい。／ 複数人数来場者の喋り声がうるさい。注意を促してほしい。／ 順路の示され方が明確でわかりやすかった。／ コロナ対策も万全だし、人数も少なく、安心して鑑賞できた。

◆その他

動画の館長さんのお話がとても良かったです！／ 2017年からのはんび浮世絵プログラムシリーズ全部見えています。／ 早くコロナが終わって展示室でギャラリートーク等きけるようになればいいなと思いました。／ コロナ禍で美術館に伺う機会が減っていましたが、久しぶりに観覧してみても楽しく、心が軽くなったように思います。感染対策もしっかりされていて安心して観ることができました。／ ポストカードの種類が少なく、少し残念です。／ カタログ売り切れは残念。追加注文できれば良かった。／ 浮世絵企画もっと見たいです。ぜひ年間スケジュールで増やしてください。／ この美術館はもっと多くの人に知られるべき。発信の仕方など、ますます工夫してもらえることを期待しています。

2021年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

展覧会名	版画の見かた―技法・表現・歴史―			担当者名	藤村拓也			
会期	2021年9月25日(土)～12月5日(日)			開催日数	62日			
協賛・後援・協力	なし							
巡回館	なし							
展覧会概要	版画作品とともに版や道具などを展覧することで、版画の多種多様な技法と表現の面白さを紹介する展覧会。当館のコレクション約3万2千点の中から、著名な版画家だけでなく版画ならではの鑑賞のポイントを持つ作品を展示した。若手の版画家を講師とした版画の実演・体験イベントや、気鋭の評論家による講演会などを実施し、版画を楽しむ、考える機会も提供した。出品件数(点数)は136件(226点)。							
ねらい・対象	以下の三点によって、版画の魅力をさまざまな視点から来館者に感得してもらうことをねらった。①名も無き職人から世界的に有名な美術家まで、古今東西のさまざまな版画を展示。②版や道具等も展示することで、版画の技法や表現の面白さをわかりやすく紹介。③古今東西の歴史において版画が担ってきた役割を紹介。以上を「版画の技法(凸版、凹版、平版、孔版)」「版画の表現(ライン&グラデーション、カラー、テーマ&モチーフ、コンセプト)」「版画の歴史(信仰、情報)」の三章構成で紹介した。対象は版画についてほとんど知識の無い方から、版画の専門家(研究者・版画家)までの幅広い層。							
関連催事	催事名		開催日	タイトル		講師等	参加者数	
	記念講演会		11月28日(日)	版画の考えかた		gnck (評論家)	38人	
	制作実演・体験制作①		10月9日(土)	版画の作りかた 謄写版		神崎智子 (版画家)	22人	
	制作実演・体験制作②		10月23日(土)	版画の作りかた 木版画		石橋佑一郎 (版画家)	30人	
	制作実演・体験制作③		11月13日(土)	版画の作りかた 銅版画		田沼利規 (画家・版画家)	24人	
	プロムナードコンサート		11月20日(土)	音の楽しみかた		江澤隆行 (ピアノ)	163人	
	ギャラリートーク		10月17日(日) 11月21日(日)	版画の楽しみかた		藤村拓也 (当館学芸員)	45人	
観覧料	一般	大・高生	無料日					
	800 円	400 円	展覧会初日:9月25日 文化の日:11月3日 シルバーデー:10月27日、11月24日					
観覧者数	有料計		無料計	総観覧者数	内、一般	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	2,804 人		2,243 人	5,047 人	4,398 人	232 人	417 人	— 人
	目標値							5,360 人
主な収入	観覧料収入		図録販売収入		受託販売収入		その他の特定財源	
	1,808 千円		0 千円		7,607 千円		0 千円	
事業経費	・講師謝礼 ・展覧会協力謝礼 ・通信運搬費 ・作品額装委託料 ・ポスター等作成委託料 ・ディスプレイ作成委託料				50 千円 300 千円 737 千円 322 千円 942 千円 480 千円		2,831 千円	
主な広報・取材等の講評	【テレビ】Tokyo-MX(会期後「東京藝大で教わる西洋美術の見かた」で展示作品を紹介)、J:COM 【新聞・雑誌】KIRABOSHI、江戸楽、もしもし、イッツコムテレビガイド、中外日報、しんぶん赤旗 【ウェブ】ファッション・プレス、インターネットミュージアムほか							

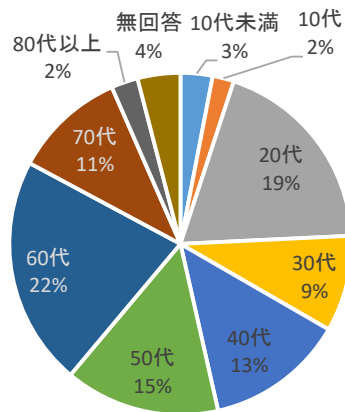
	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)		
					企画の内容	展示作品	展示の仕方等
アンケート結果	231 件	4.6 %	27 %	51 %	93.4 %	91.4 %	81.4 %
	主なご意見	別紙のとおり。					
工夫と反省点、改善方法	予備調査	収蔵品情報のデータベース化作業とあわせて、前年度から作品調査や文献調査などをおこなった。関連催事についても、普及係や講師との打ち合わせを前年度からおこなった。他係や関係者との連絡を密におこなうことで、円滑に展覧会・催事準備を進めることができた。					
	作品選択	収蔵品情報のデータベース化作業によって、出品機会の少なかった作品の中から版画の魅力を伝えるうえで興味深いものを選択することができた。点数が200点を超えたことにより、展示空間が窮屈になり、動線が複雑になった。結果、来館者にとって見にくい展示になってしまった箇所があった。					
	リーフレット	無料配布のリーフレットをA5判16ページで3000部作成した。出品作の図版をできるだけ多く掲載して見やすさと資料性を高めるため、リーフレットの挿図をサムネイル表示した。好評につき、会期終了前に配布を終了することとなった。一方で、今までの展覧会と同様、図録の販売を希望する意見があった。					
	広報	展覧会の中心作品であり、知名度の高い棟方志功の作品をポスター・チラシのメインビジュアルに採用し、インパクトのある広報印刷物を作成した。またSNS投稿を積極的におこなった。一方で、当館が取り上げられたテレビ番組(TOKYO MX「わたしの芸術劇場」など)が来館のきっかけになった人が多いことから、マスメディアへのさらなるアピール方法を検討していく必要がある。					
	ディスプレイ	額に入った作品だけでなく、ケース内に版や道具、模型などを出品することで、版画の作り方も視覚的に理解できる展示をおこなった。会場内で映写した普及係作成の版画制作動画も、わかりやすいと好評だった。ただし出品点数が200点を超えたこともあり、作品が見にくかったり、動線がわかりにくかったりする箇所ができてしまった。					
	イベント	記念講演会、制作実演・体験制作、ギャラリートーク、プロムナードコンサートを実施した。デジタル画像を用いた美術の評論家であるgnck氏による講演会は、新たな切り口から版画を考える内容であり、参加者の評価も高かった。普及係との協力によって実施した制作実演・体験制作は、若手の版画家三名(神崎智子氏、石橋佑一郎氏、田沼利規氏)を講師に迎えた。各回定員を満たし、参加者の満足度も高かった。					
その他特記事項	・リピーター割引、タクシー割引、パスポート割引、シェアサイクル割引を実施し、282名の利用があった。 ・シルバーデー(毎月第四水曜日:10月27日、11月24日)は302人の利用があった。						

「版画の見かた」展 アンケート集計結果

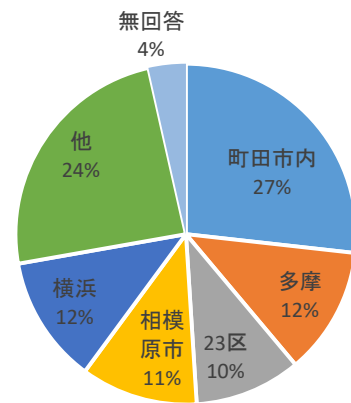
開催期間: 2021年9月25日(土)～12月5日(日)

回答者数: 231 人(総入館者数: 5,047人 アンケート回収率: 4.6%)

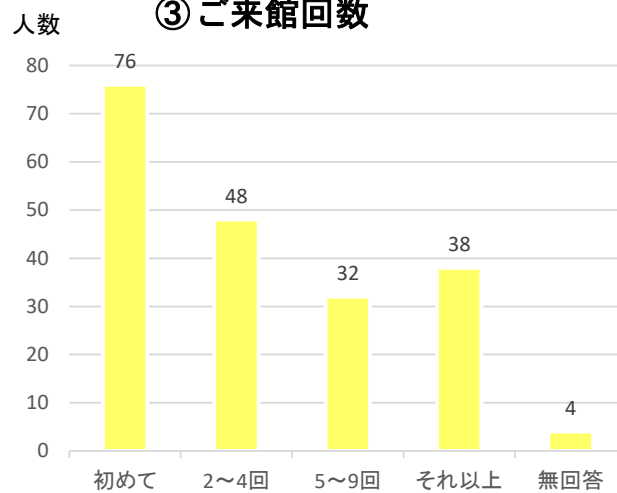
① 年齢層



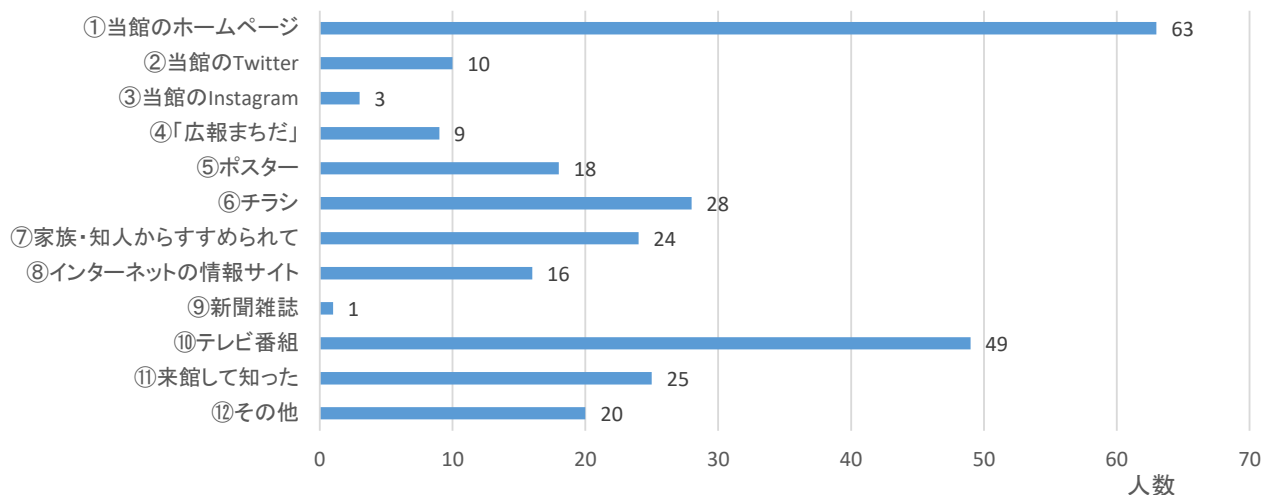
② お住まい



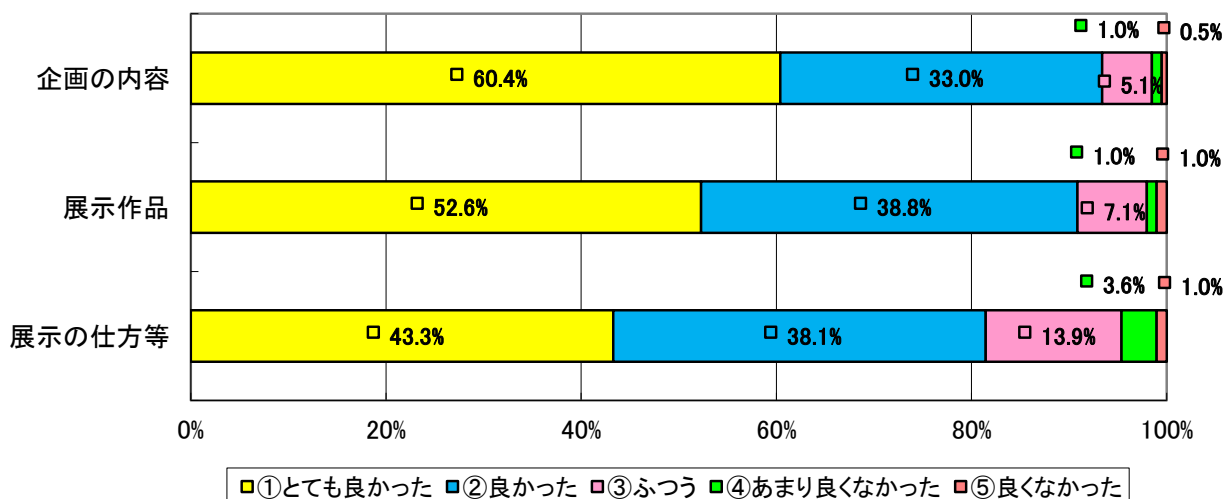
③ ご来館回数



④ 展覧会情報の入手



⑤ 回答者の満足度



⑥ 主なご意見・感想

【内容について】

版画の違いや工程を知ることができ、その良さがわかった。
 版画のイメージがかわった。大変おもしろかった。
 映像を使っの技法の説明は本当にわかりやすかった。
 版画美術館の本気を見た思い。
 わかりやすく順を追った説明だった。
 解説がわかりやすく勉強になった。
 章立てがわかりやすかった。
 制作風景や道具の展示もあって良かった。
 バラエティーに富んでいた。
 若手の作家の作品が見れてよかった。
 解説が少ないように感じた。
 作家・作品の国名を表記してほしい。

【会場について】

サインやキャプションが大きく見やすかった。
 長すぎずテンポよく見ることができた。
 写真撮影可能なものもあり良かった。
 静かに落ち着いて見ることができた。
 映像をもう少し見やすい場所にしてほしかった。また椅子が欲しかった(※会期中に椅子を設置)。
 小声でしゃべっていても注意を受けたが、多少は話しながら見るのも良いのではないかな。
 照明が邪魔で、壁の修復跡が気になった。
 額に光が反射して見にくかったので工夫してほしい。
 インターネットにつながらないのが不便。
 撮影可・不可の作品がわかりにくかった。
 順路がわかりにくかった(※会期中に順路を示す矢印シールを床面に貼付)。
 少し寒かった。

【その他】

小冊子もとても良かった。
 図録がないのが残念。
 シャトルバスを続けてほしい。
 音声ガイドがあると良い。
 看視員の視線や動きが気になる。
 観覧料が高くなったので少し不満。
 地元ですばらしい美術館があることをあらためて誇りに思う。

1 版画講座

版画工房・アトリエにて開催される版画の講習会。 様々な種類の版画を体験することができます。制作を通して版画の理解を深め、創作の楽しさを味わうことを目的にしています。

	事業名	対象	概 要	実施日程	実施状況	定員 (当初予定)	参加延人数 網掛けは見込数	小中学生 (実績値)	参加費	備考
1	木版画一日教室①	一般 (高校生以上)	彫刻刀やバレンの持ち方から、絵具の溶き方、刷毛の使い方まで、版画の基本的な制作を一日で体験する。初心者から参加可。単色または2色摺りの年賀状を制作。下絵は講師が複数用意し、好きなものを選ぶ。彫りから摺りまで、ハガキ30枚程度を制作する。講師：木下泰嘉	12/7(火)	会場変更	15人	14人	—	3,000円	◆感染縮小傾向に伴い会場を市民展示室からアトリエに変更
2	木版画一日教室②			12/8(水)	会場変更	15人	15人	—	3,000円	
3	銅版画一日教室①		版画の基本的な制作を一日で体験する。初心者から参加可。12×16cmの銅板を用い、ドライポイント技法で作品を制作。下絵は各受講生が持参。様々な方法で描きこむことにより深みのある作品作りを目指す。講師：馬場知子氏	5/28(金) →3/4(金)	日程変更 定員変更	8人	14人	—	3,000円	◆臨時休館により延期 ◆感染縮小傾向に伴い定員を14人に変更
4	銅版画一日教室②			5/29(土) →3/5(土)	日程変更 定員変更	8人	14人	—	3,000円	
5	創作講座 スクリーンプリント	一般 (高校生以上)	感光による製版で多色刷り作品の制作を学ぶ。画面サイズは21×30cm以内。3～4色のインクで印刷。初心者対象だが、写真をパソコンで加工できる方は、各自のスキルにより原稿を用意できるように指導した。講師：吉永晴彦	11/5～12/24(金曜・8回)		8人	64人	—	24,000円	

計 121人

3 作品展

講座で制作した作品による作品展を、館内の市民展示室等で開催します。 作品を展示する機会を受講生に提供し、「発表する楽しさ」を経験してもらうことを目的としています。 小中学校作品展では、美術館を会場とし美術館職員がかかわることで、より質の高い展示を目指しています。

	事業名	対象	概 要	会 期	実施状況	出品状況	来場者数 網掛けは見込数	小中学生 網掛けは見込数	観覧料	
1	第35回 町田市公立小中学校 作品展	どなたでも	町田市内の公立小中学校の児童・生徒による作品展。子どもたちが学校で学習した美術、図画工作、書写の意欲溢れる作品を展示する。 ＜参加校＞ 町田市立小学校および中学校 ＜出品作品＞ 上記学校の授業等で児童・生徒が作った水彩画、版画、デザイン、ポスターなどの平面作品ならびに中学生による工芸、彫刻などの立体作品。および小学生の書写作品。 ＜会場＞企画展示室1 主催＝町田市、町田市教育委員会、 町田市公立小学校教育研究会図工部・国語部、町田市中学校教育研究会・美術部	中学校美術作品展 2022年1/14(金)～23(日)＜9日間＞		20校 平面2008点 立体880点	5,048人	1,347人	無料	立体展示台の数を減らす。(展示室内の動線を簡素化し、鑑賞者同士の距離が十分とれるようにする)
				小学校図画工作展 1/28(金)～2/6(日)＜9日間＞		42校 平面約1500点 (見込)	8,500人	2,550人 推測値(30%)		立体作品の出品を中止。(密の回避)
				小学校書写展 2/11(金・祝)～2/20(日)＜9日間＞		42校 約3500点 (見込)	2,000人	600人 推測値(30%)		昨年度は開催されなかったため、2年ぶりの展示

計 約15,000人 約4,500人

3 イベント、コンサート

気軽に参加できるさまざまなイベントを実施することで、より身近な美術館となるよう努めます。

	事業名	対象	概 要	実施日程	実施状況	定員	参加人数 網掛けは見込数	小中学生以下 網掛けは見込数	参加費	
1	版画体験イベント①	小学生以上	「リトグラフを刷ろう！」 簡単な制作を通じて、版画の魅力が体験できます。企画展開連事業として リトグラフの刷りを体験。	5/1(土)→11/3(水・祝)	日程変更	30人	30人	14人 (幼児含む)	500円	臨時休館により日程変更
2	版画の作り方①	小学生以上	企画展「版画の見方」の関連催事として学芸係と連携して実施。講師の公開制作と参加者の制作体験を通じて版画への親しみと理解を深める。11/3実施の「版画体験イベント」と併せ、凹版・凸版・平版・孔版の4版種を網羅するよう講師を選択した。 講 師：①孔版(謄写版)：神崎智子、②凸版：石橋佑一郎、③凹版：田沼利規 会 場：講堂	10/9(土)		10人(制作体験)	10人	2人	無料	参加者の他に見学12人
	版画の作り方②			10/23(土)		10人(制作体験)	11人	1人	無料	参加者の他に見学11人
	版画の作り方③			11/13(土)		10人(制作体験)	10人	0人	無料	参加者の他に見学14人
3	プロムナード・コンサート③	どなたでも	「音の楽しみかた」 江澤隆行(ピアノ)	11/20(土) ①13:00 ②15:00 各回30分		①101人 ②101人	①89人 ②74人	8人 推測値(5%)	無料	
	プロムナード・コンサート④		「ピアノとフルート 笑顔色づくハーモニー」 武原さつき(ピアノ)、笠原陽子(フルート)	2022年 3/19(土) ①13:00 ②15:00 各回30分		①101人 ②101人	①101人 ②101人	10人 推測値(5%)	無料	

計 426人 35人

4 版画工房・アトリエの一般開放

	事業名	対象	概 要	実施日数	実施状況	定員	参加人数 網掛けは見込数	小中学生 (実績値)	使用料	
1	版画工房・アトリエの 一般開放	版画制作経験者	版画工房とアトリエを開放し、創作の場を市民に広く提供。 各種プレス機、腐蝕施設、ローラー等の備品のほかインクなどが使用できる。 毎週木曜、日曜、月2回の火曜に実施。 9時30分～17時30分(9時30分～13時30分と13時30分～17時30分)	61回実施 10/1～11/30(20回) 通常定員の70%で実施 12/1～1/18(15回) 通常定員で実施 1/19～1/31(5回) 通常定員で実施※ 2/1～3/31(21回) 通常定員の70%で実施	左記参照	銅版画10(7)、リトラ76(5)、スクリーンプリント8(5)、木版画2(2) ※カッコ内は70%での定員	10/1～1/18(35回)1236人 1/20～3/31(36回)1094人	—	半日：1,250円 一日：2,500円	※1/19～1/31は予約人数が定員の70%を超えている場合、新規予約を受付せず。

計 2,330人

2021年度国際版画美術館事業報告書【講座・イベント版】

プログラム名	第23回 ゆうゆう版画美術館まつり					
主催者	「国際版画美術館友の会」と「国際版画美術館」の共催			人数	2,008人	
開催日時	2021年10月30日(土)・31日(日) 10:00～16:00			場所	町田市立国際版画美術館と前庭	
実施概要						
	イベント	日 時	内 容	場 所	人数	備 考
①	開会式	10/30(土) 10時～	・主催者挨拶 ・市長挨拶	—	—	三密を避けるため、集合形式での実施から、館内放送での実施に変更。
②	木版画摺り体験	10/30(土)、31日(日) 10時～16時	個別指導で、はがきサイズの木版画の「多色摺り」を体験。	アトリエ	385	
③	キッズ・アートのスペース 『万華鏡を作って遊ぼう!』	10/30(土)、31日(日) 10時～16時	キットを使い、自分だけの光と鏡が織りなす個性豊かな万華鏡を作成。	エントランス	130	三密を避けるため、整理券で1日8組(1組40分間)に絞って実施。
④	市域学生アートイベント 玉川大学 『一ヒカリニソマレー』	10/30(土)、31日(日) 10時～16時	3つのブースを巡りながら、自然光の効果(透過、反射、影など)を体感するインスタレーション。	前庭	200	31日は雨天のため、ひさしのある部分に移動し、ライトの照明で実施。
⑤	市域学生アートイベント 桜美林大学 『草の根国際理解教育支援プロジェクト』	10/30(土)、31日(日) 10時～16時	クローズアップクイズやカルチャーショッククイズで、国際理解を深める。	講堂	—	
⑥	ポスターデザイン表彰式	10/31(日) 11時～12時	まつりデザインコンテストに入賞した作品の表彰式。	エントランス	60	応募した全作品は、2日間にわたり展示。市長賞(最優秀賞)が、今回のチラシ・ポスターとなっている。
⑦	ゆうゆうコンサート 『木管五重奏』	10/31(日) 第1部:13時～13時半 第2部:14時半～15時	フルート・オーボエ・クラリネット・ホルン・ファゴットによる木管五重奏。	講堂	120	感染症対策として、間隔を開けて席を設置。各回観客60名で実施。
備考	・感染症対策として、館外は例年来場者が集中するアートバザールを中止し、玉川大学アートイベントと喫茶けやきの出店のみとした。また、チラシの配布先を近隣自治会のみに限定し、人が集まりすぎないように配慮した。 ・初の試みとして、来館者以外にもまつりが楽しめるように、YouTubeによる動画配信を行った。 ・「町田時代祭り(芹ヶ谷公園)」と「文学館まつり(町田市民文学館)」「生涯学習センターまつり(生涯学習センター)」と同時期になるよう開催日を設定したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、他のまつりは中止となり、「ゆうゆう版画美術館まつり」単独での開催となった。					
事業経費	●負担金 850千円					
主な広報・取材等	朝日新聞首都圏版マリオン・ショッパー・タウンニュース・読売新聞多摩版など					

まつりの様子



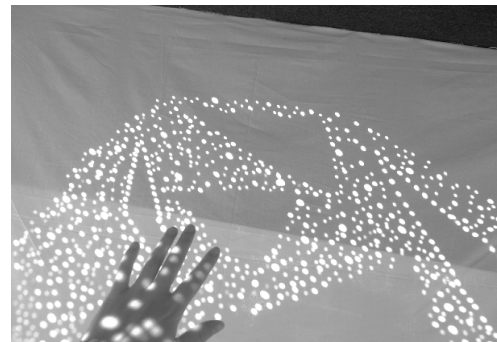
前庭・入口の様子



館内放送・市長挨拶



玉川大学アート・イベント



桜美林大学 パネルクイズ



キッズ・アーツスペース



木版画摺り体験



ゆうゆうコンサート

2022年度展示事業(案)

(1)企画展

※有料企画展の各初日、開館記念日=4/19、文化の日=11/3、市制施行記念日=2/1は無料。

シルバーデー〔毎月第4水曜日〕は、65歳以上無料。中学生以下は全展覧会無料。

No	展覧会名／観覧料	会期	展示資料概要	企画概要
1	吉例浮世絵大公開！ 江戸の滑稽 幕末風刺画と大津絵 一般＝800(600)円 大・高生400(300)円 ※()内は20名以上の団体料金(以下同様)	4月1日(金)～ 4月10日(日) <9日間> ※2022年度 ※展覧会会期: 3/12(土)～4/10(日) (26日間)	田河水泡コレクションを中心に、国際版画美術館収蔵品より、浮世絵の風刺画、戯画、そして大津絵、約140点を展示。	浮世絵には、何気ない笑いから福徳への願い、病や災害への恐れなど、日々の感情がユーモラスに描き表されています。本展では田河水泡コレクションを中心に、当館が収蔵する浮世絵の風刺画や戯画、大津絵など約140点を一堂に展示。江戸・明治のエネルギーでリアルな声を読み解きます。
2	彫刻刀が刻む戦後日本 —2つの民衆版画運動 一般＝900(700)円 大・高生450(350)円	4月23日(土)～ 7月3日(日) <62日間> ■無料日: 展覧会初日・4/23(土) ■シルバーデー: 4/27、5/25、6/22	「戦後版画運動」(1947～1956頃)と「教育版画運動」(1951～1998頃)の2つの民衆版画運動を外観し、作品・資料350点を展示。	日本の多くの学校で版画を作るのは、2つの民衆版画運動と関りがあります。本展はこの「戦後版画運動」と「教育版画運動」を連続した事象として紹介する初の展覧会です。前者はプロが労働・農民・平和運動を描き、工場や農村に版画制作を広めました。そこから派生した後者は小中学校で生徒に版画制作を通じて「生活を見つめ現実を認識すること」を促し、義務教育に版画制作が導入されることに貢献しました。版画で社会と生活のリアルに迫った知られざる美術／教育運動に迫ります。
3	長谷川潔 1891-1980 —日常にひそむ神秘— 一般＝800(600)円 大・高生＝400(300)円	7月16日(土)～ 9月25日(日) <62日間> ■無料日: 展覧会初日・7/16(土) ■シルバーデー: 7/27、8/24	国際版画美術館所蔵の長谷川潔の銅版画を中心に約160点展示予定。このうち挿絵本『竹取物語』は、挿絵頁を可能な限り多く展示。	長谷川潔は1918年末に日本を去って以来フランスを拠点に活動し、フランスと日本を中心に高い評価を得た銅版画家です。国際版画美術館は2018年度にこの版画家の展覧会を開催しました。その際大好評でしたが会期が短ったため今回再開催します。最初期から深淵な精神世界を描き出した1960年代の銅版画までの作品を年代順に展示し、長谷川作品の表現について再考します。
4	版画×写真 1839-1900 一般＝900(700)円 大・高生450(350)円	10月8日(土)～ 12月11日(日) (56日間) ■無料日: 展覧会初日・10/8(土) 文化の日・11/3(火) ■シルバーデー: 10/26、11/23	19世紀フランスを中心に、版画と写真作品、およびカメラ等の道具、関連書籍など約150点を展示予定(展示替えあり)。	19世紀の版画と写真の関係は、これまで対立ばかりが語られてきました。確かに、版画に代わる複製技術となることは、写真の初期の目標のひとつでした。しかし、露光時間や感光性、焼き増しや印刷など写真には解決すべき問題も多く、写真と版画は補いあう関係でもありました。やがて写真技術は急速な発展を遂げ、版画と写真は競い合う中で、自らの特質を活かした表現をそれぞれ追求することとなります。2022年はニセフォル・ニエプスが世界初のフォト・エッチングを制作してから200年にあたります。本展はヨーロッパを中心とする版画と写真・関連資料150点により、1830～80年代初期写真における写真と版画の展開を辿り、その表裏一体の関係を探ります。

No	展覧会名／観覧料	会期	展示資料概要	企画概要
5	新収蔵作品展 無料	12月22日(木)～ 2023年2月19日(日) ＜45日間＞ ※会場: 企画展示室2	新収蔵作品約70点	作品収集事業は展示事業とともに国際版画美術館の重要な事業のひとつです。 この展示では新たに収蔵された作品をお披露目し、市民の皆さまに収集事業についてご紹介することを意図しています。 2021年度後半から2022年度にかけて新たに収蔵された作品を展示いたします。
6	第36回 町田市公立小中学校 作品展 無料 ◇主催 町田市 町田市教育委員会 町田市公立小学校教育研究会・ 図画工作部、国語部 町田市中学校教育研究会・美術部 ※学校連携事業 (普及係担当事業)	2023年 1月13日(金)～ 2月19日(日) ＜27日間＞ ①中学校美術作品展 1/13(金)～1/22(日) ＜9日間＞ ②小学校図画工作展 1/27(金)～2/5(日) ＜9日間＞ ③小学校書写展 2/10(金)～19(日) ＜9日間＞ ※会場: 企画展示室1	①町田市立中学校の生徒による美術作品。水彩画、デザイン、版画、立体など ②町田市立小学校の生徒による図工作品。水彩画、クレヨン画、版画、立体など ③町田市立小学校の生徒による書写作品。	児童・生徒の日頃の学習成果の発表の場。 学校を超えて互いの作品を鑑賞することで、児童・生徒の豊かな心を育て、教職員の研究を深める機会にします。 保護者及び市民に、美術・図工・書写教育に対する理解を深めてもらいます。 町田市の子供たちが将来の文化を担う素地を養い、市民文化がますます発展することを願って行います。
7	自然の造形 一般＝900(700)円 大・高生450(350)円	3月18日(土)～31日(金) ＜12日間＞ ■無料日: 展覧会初日・3/18(土) ■シルバーデー: 3/22 ※展覧会会期: 3/18(土)～5/21(日) (56日間)	15～18世紀に刊行された植物や動物の図鑑をはじめ、図鑑と絵画の要素が混交したソーントンの『フローラの神殿』や、草花の装飾モチーフが紙面を彩るクレインの挿絵本など約200展。	人間が表してきた自然のすがた・かたちを一堂に会する展覧会です。美しい花々や珍しい生き物、異国の自然環境などは、古くから言葉と絵によって記述され、さらに版画と活字によって広められてきました。また自然は今日に至るまで美術の靈感源となり、私たちの目を楽しませてきたといえます。自然と美術の魅力的な関係を、版画を中心に浮かびあがらせませす。
(2) 常設展示室 ミニ企画(入場無料)				
	企 画 展 名	会 期	展 示 の 概 要	
1	紙上の静物たち	4月13日(水)～ 7月10日(日) 〈77日間〉	版画家のまなざしと手によって物言わぬ花や器などが語りだすかのように感じられる作品約40点を紹介します。	
2	文明開化の子どもたち—浮世絵に描かれた遊びと学び	7月13日(水)～ 9月25日(日) 〈65日間〉	2022年3・5月にパリ日本文化会館で開催された「文明開化の子どもたち」展の凱旋展。同地で紹介された子ども絵や教育錦絵、おもちゃ絵を展覧します。	
3	内海柳子とデモクラートの作家たち	9月28日(水)～ 12月18日(日) 〈70日間〉	戦後の版画界に新風を吹かせた「デモクラート美術家協会」。数少ない女性会員だった内海柳子を中心に、瑛九ら会員の作品約40点を紹介します。	
4	パリのモダン・ライフ—1900年の版画、雑誌、ポスター	12月22日(木)～ 2023年3月12日(日) 〈63日間〉	アルフォンス・ミュシャ(1860-1939)ら世紀転換期のパリで活躍したアーティストを中心に、当時の暮らしを彩った版画、雑誌、ポスターを展示します。	
5	日本の自然(仮)	3月15日(水)～31日(金) 〈15日間〉 ※会期:3月15日(水)～ 5月21日(日)	「自然の造形」展の開催に合わせ、日本の版画に表された自然の造形を読み解きます。	

1 版画講座
版画工房・アトリエにて開催される版画の講習会。 様々な種類の版画を体験することができます。制作を通して版画の理解を深め、創作の楽しさを味わうことを目的にしています。 子どもを対象にした講座では、版画美術館ならではの楽しい制作体験ができるよう工夫を重ねています。

No	事業名	対象	概要	実施日程(予定)	参加人数(年間見込)	参加費
1	一日教室	一般(高校生以上)	版画の基本的な制作を一日で体験します。 初心者から楽しめます。	銅版画 6/3(金)、6/4(土) リトグラフ 9/2(金)、9/3(土) 木版画(年賀状) 12/6(火)、12/7(水)	62人(各回定員:銅版8、リト8、木版画15)	3,000円
2	創作講座	一般(高校生以上)	応用技法や多色刷りで、じっくりと作品制作に取り組む長期の講座です。	銅版画 9/14～11/16(水曜 10回)	80人 (定員8人)	30,000円
3	子ども講座	幼児・小学生	2022年度の「子ども講座」は展覧会を鑑賞し、それにちなんだ制作を美術館のアトリエで楽しめます。「夏期子ども講座」は東京学芸大学の学生と2日連続で実施した後、子どもたちの作品と指導をおこなった学生の版画作品を市民展示室で展示します。	子ども講座①5/7(土)、②2023年3/25(土) 夏期子ども講座:7/30・31(土・日)・作品展示8/9(火)～13(土)	62人(定員15人、夏期子ども講座16人)	1000円 夏期子ども講座 2,000円

2 学校教育への協力
町田市内の学校を中心に、美術部の体験学習や学校単位での団体鑑賞、出張授業などをおこなっています。版画技法について教員からの問い合わせに答えたり、教員研修会への講師紹介・道具の貸出しなどもおこなっています。

No	事業名	対象	概要	実施日程	参加人数(年間見込)	参加費
1	版画講座	中学、高校の美術部など	学芸員が版画の制作を指導します。 夏休みの校外体験学習として毎年10校程度が来館しています。 15名程度が参加できます。	依頼校との調整により決定。 夏休み期間中のほか、土曜日など。	60人	500円
2	教員研修会等への協力	町田市内の小中学校など	図工や美術の教員研修会に対して、会場の提供、講師の紹介、版画の道具の貸出しなどを行っています。	夏休み期間中のほか、土曜日など。 年間2～3回	40人	無料

3 作品展
講座で制作した作品による作品展を、館内の市民展示室等で開催します。 作品を展示する機会を受講生に提供し、「発表する楽しさ」を経験してもらうことを目的としています。 小中学校作品展では、美術館を会場とし美術館職員がかかわることで、より質の高い展示を目指しています。

No	事業名	対象	概要	実施日程(予定)	来場者数(見込)	観覧料
1	講座受講生作品展	どなたでも	前年度に実施した創作講座(長期講座)の受講生と講師による作品展。会場:市民展示室	5/25(水)～5/29(日)	300人	無料
2	夏期子ども講座作品展	どなたでも	夏期子ども講座の受講生と指導をおこなった東京学芸大学の学生による作品展。会場:市民展示室	8/9(火)～13(土)	200人	無料
3	第36回 町田市公立小中学校作品展	どなたでも	町田市立小中学校の児童・生徒による作品展。水彩画、デザイン、ポスター、版画、立体。および小学生の書写。 会 場:企画展示室1 主 催:町田市/町田市教育委員会/町田市公立小学校教育研究会国語部図画工作部・/町田市中学校教育研究会美術部	中学校美術作品展 2023年1/13(金)～22(日)<9日間> 小学校図画工作展 1/27(金)～2/5(日)<9日間> 小学校書写展 2/10(金)～19(日)<9日間>	17,000人	無料

4 イベント、コンサート
気軽に参加できるさまざまなイベントを実施することで、より身近な美術館となるよう努めます。

No	事業名	対象	概要	実施日程(予定)	参加人数(見込)	参加費
1	作家招へい事業	小学生以上	アーティストによる公開制作。 企画展関連事業として実施予定。 招へい作家未定。	11月	40人	無料
2	版画体験イベント	小学生以上	簡単な制作を通じて、版画の魅力が体験できます。	①8/6(土)、②8/7(日)、③2023年2/18(土)	144人	500円
3	プロムナード・コンサート	どなたでも	エントランスホールで企画展にちなんだ曲等を演奏します。	年間4回	600人	無料

5 版画工房・アトリエの一般開放

No	事業名	対象	概要	実施日数(予定)	参加人数(年間見込)	使用料
1	版画工房・アトリエの一般開放	版画制作経験者	版画工房とアトリエを開放し、創作の場を市民に広く提供しています。 各種プレス機、腐蝕施設、ローラー等の備品のほかインクなどが使用できます。	年間119回	3600名	半日:1,250円 一日:2,500円

6 その他事業

No	事業名	対象	概要	実施日程(予定)	参加人数(見込)	
1	第24回 ゆうゆう版画美術館まつり	どなたでも	アートバザール、コンサート、子供向けワークショップなど館内でさまざまなイベントが実施されます。 友の会との共催事業です。	10月の土日2日間	2,000人	無料